

2022年度の取組実績と 2023年度の計画



あいちロボット産業クラスター推進協議会



(1) 総会の開催

開発者と利用者の
協働体制の構築

企業講演によるロボット業界最新動向の情報提供と会員相互の交流

- **開催日** 2022年7月27日
- **参加者** 102名（うちオンライン42名）
- **内容**
 - ・講演「ロボットが社会インフラとなるロボタウンの推進」
(株)ZMP 代表取締役社長 谷口 恒 氏
 - ・講演「exaBase ロボティクスで実現する“熟練技能”の継承」
(株)エクサウィザーズ
AIプラットフォーム事業部 Robot企画部 Robot企画グループ ビジネスディベロップメントリード 直野 廉 氏
 - ・Robotic “Startup” Pitch（PRE-STATION Ai に入居するロボット関連スタートアップによるショートプレゼンテーション）
OnClouds(株)、(株)ファースト・オートメーション、(株)Robofull
 - ・ポスターセッション・会員交流会



協議会会員の状況

会員数： 556社・団体
うち今年度新規加入**35社・団体**
(2023年2月末現在)

※会員の参画する立場

・開発側	146
・利用側	136
・開発側と利用側の両面	119
・開発や利用を支援する立場	155

(2) 「知の拠点あいち」重点研究プロジェクト IV期

研究開発と
実証の支援

大学等の研究シーズを活用したオープンイノベーションにより、県内主要産業が有する課題を解決し、新技術の開発・実用化や新たなサービスの提供を目指す、産学行政連携の研究開発プロジェクト

- 期間 2022年度～2024年度
- テーマ数 3プロジェクト、9研究開発分野、27研究テーマ
- 規模 1研究テーマにつき、年間3,400万円程度

■ 知の拠点あいちとは…

大学等の研究成果をイノベーションにつなげることを目的とする次世代モノづくり技術の創造・発信の拠点



● ロボット関連研究テーマ

(◎印は研究リーダー所属機関、○印は事業化リーダー所属機関)

繊維産業におけるAI自動検査システムの構築に関する研究開発

- ◎名古屋工業大学
- 国島(株)

【概要】画像・音響処理技術による検反（織布のキズ検査）自動化及び織機異常検知システムの開発

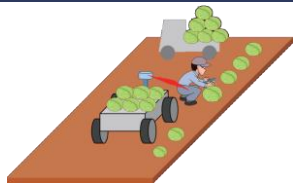


自動検反装置（完成イメージ）

愛知農業を継承するための農作業軽労化汎用機械の開発と普及

- ◎愛知工業大学
- (株)マックスシステムズ、個人農家、(株)戸倉トラクター

【概要】収穫運搬の軽労化へ向けた搬送ロボット開発及び見廻り管理の軽労化へ向けた遠隔管理技術の開発



収穫支援：知能化野菜作業車イメージ

スマートファクトリーの完全ワイヤレス化に向けた非接触電力伝送

- ◎豊橋技術科学大学
- (株)近藤製作所

【概要】スマートファクトリー実現に向けた産業用ロボット及び工場内センサへの基礎送電技術の開発



産業用ロボット向けWPTシステム

〈弱いロボット〉概念に基づく学習環境のデザインと社会実装

- ◎豊橋技術科学大学
- (株)ヒミカ、(株)ICD-LAB

【概要】ロボット自体の能力の不完全さから、相対する子どもの社会性を引き出す〈弱いロボット〉とその学習支援プログラムの開発



開発する〈弱いロボット〉の一例

安心長寿社会に資する認知情動を見守り支える住まいシステム開発

- ◎藤田医科大学
- ジョージ・アンド・ショーン(株)、中部電力(株)

【概要】表情視線、ライフライン情報を活用した認知情動機能支援システムの開発



スマートメータからの電力・水道の使用情報取得

(3) 新あいち創造研究開発補助金

研究開発と
実証の支援

今後の成長が見込まれる分野（ロボットをはじめ、次世代自動車や航空宇宙等）において、企業等が行う研究開発・実証実験を支援

- 補助率 中小企業は2/3以内、大企業及び市町村は1/2以内
- 補助限度額 中小企業及び市町村は1億円以下、大企業は2億円以下
- 採択結果 66件（採択額 計7億6,000万円）
- ロボット分野・ロボット関連分野 採択案件 9件
- 採択企業及び事業名

企業名	所在地	事業の名称
新明工業(株)	豊田市	航空機機体複合材CFRP損傷修復スカーフサンディングロボットの研究開発
(株)中央エンジニアリング	名古屋市中村区	連続炭素繊維複合材の自動積層造形による産業用ドローンの軽量化・高生産性に関する研究開発
東洋ライト工業(株)	豊橋市	鉄筋組立ロボットのベンチ及びストッカーの研究開発
(株)トクイテン	名古屋市中村区	AI（ディープラーニング）とロボット技術を活かし、収穫適期トマトを自動判別する収穫ロボットの研究開発
中日本航空(株)	豊山町	群制御ドローンを用いて防災拠点である空港を短時間で点検するシステム構築に関する実証実験
(株)パワーウェーブ	豊橋市	電動化社会の基盤技術であるワイヤレス給電実用化のための高周波大電力パワエレ回路の研究開発
(株)フカデン	豊田市	AIを活用した市街地におけるインフラ点検用有線給電式ドローンの研究開発
福井ファイバーテック(株)	豊橋市	ドローンを活用した、農畜産現場におけるウイルス不活化、抗菌、消臭に対する実証実験
(株)名和技研	安城市	EV部品製造における超高速加工を実現し製造改革に貢献する超高速自動搬送装置の研究開発

(4) 展示会への出展支援

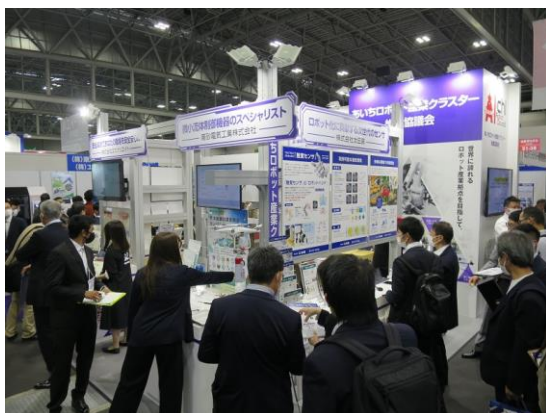
利用者創出
と情報発信

あいちロボット産業クラスター推進協議会の活動や会員企業のロボット等をPR

出展実績

出展展示会	時期	場所	出展内容	展示会来場者
第5回名古屋ロボテックス	10月26日～ 10月28日	ポートメッセなごや	協議会紹介、 5社のロボット	31,832名
ロボット・AIシンポジウム2023名古屋	2月8日～ 2月9日	吹上ホール	県のロボット産業 振興の取組紹介	4,797名

※同時開催展示会の来場者含む



第5回名古屋ロボテックス



ロボット・AIシンポジウム2023名古屋

(5) ロボカップジュニア・ジャパンオープンの開催

人材育成

名古屋市が中心となって開催する、19歳以下の子供たちが競うロボカップジュニアの全国大会を開催委員会に参画し推進

- **日程** (一般公開日) 2023年3月25日・26日
- **会場** 名古屋市国際展示場 (ポートメッセなごや) 第3展示館
- **競技参加者数** 約200チーム・約650名 (想定)
- **来場者数** 約8,000名 (想定)
- **主催** ロボカップジュニア・ジャパンオープン2023名古屋大会開催委員会
 構成団体：(一社)ロボカップジュニア・ジャパン、名古屋市、愛知県、名古屋商工会議所、(一社)中部経済連合会 等
 事務局：名古屋市
- **実施競技**

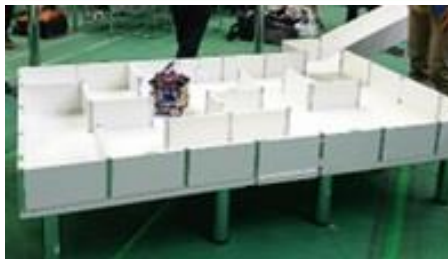
■ ロボカップジュニアとは

ロボットの設計製作を通じて次世代のロボカップの担い手を育て、次世代のリーダーとなるための基礎基本を身につけられる協同学習の場を提供し、競争の先にある協調を目指す。

「ジャパンオープン」では、日本各地の地区大会を勝ち上がった選手たちが、世界大会の出場をかけて競う。



1チーム2台ずつの自律型ロボットによるサッカー競技



ロボットが周囲の状況を自ら判断し、様々な障害を乗り越えて被災者を見つける競技



ロボットが規定の時間内でダンスや演技を披露する競技

(1) 製造・物流等分野ロボット導入実証ワーキンググループ

開発者と利用者の
協働体制の構築

製造・物流等の現場でのロボット活用の先進事例の紹介や施設の見学を実施
(座長： 中部大学工学部ロボット理工学科 教授 梅崎 太造 氏)



● 第20回 テーマ「協働ロボットの活用」

2022年12月15日／一宮市千秋公民館・(株)カサイ製作所千秋工場 <参加者42名>

- 講演「デンソーロボットの活用事例と、市場の課題を解決する新しいコンセプトの協働ロボット COBOTTA PROのご紹介」
(株)デンソーウェーブ 澤田 洋祐 氏
- 講演「協働ロボット活用セミナー ～協働ロボットがモノづくり現場を変える！～」
IDECファクトリーソリューションズ(株) 鈴木 正敏 氏
- 導入事例紹介
- 相談・情報交換会
- 現場見学 ((株)カサイ製作所 千秋工場)



● 第21回 テーマ「工場内・施設内の物流自動化」

2023年3月8日／(株)八幡ねじ テクノセンター <参加者35名>

- 講演「八幡ねじが取り組む物流高度化ソリューション」
(株)八幡ねじ 商品本部 部長 渡邊 雄一郎 氏
- 講演「製造業の物流自動化のポイントと豊電子工業の取組」
(株)豊電子工業 常務執行役員 成瀬 雅輝 氏
SI技術部 物流開発室 担当員 澤島 徹 氏
- 施設見学 ((株)八幡ねじ テクノセンター)
- オープンディスカッション



(2) 産業用ロボット導入支援研修会の実施

利用者創出
と情報発信

人材育成

産業用ロボットの導入を促進するため、導入・活用を検討している中小企業等の現場責任者を対象に、座学と演習による研修会を実施

- **開催日** 2022年9月9日（金）～2023年1月20日（金）（全9日間）
- **実施機関** 名古屋工業大学
- **内容**
 - ・ 産業用ロボットの基本的な知識の講座
 - ・ 産業用ロボットの導入・活用事例の紹介
 - ・ ロボット導入提案依頼書のポイント解説
 - ・ ロボット導入に伴う工程変更の例題演習（グループワーク）
 - ・ ロボットメーカー・SIerのショールーム視察
 - ・ 産業用ロボットの操作実習
 - ・ ロボットメーカー・SIerとの個別相談会
- **講師等** (株)バイナス、(株)デンソーウェーブ、(株)近藤製作所、IDECファクトリーソリューションズ(株) 等
- **参加者** 20名



(導入例題のグループ演習)



(ショールーム見学・ロボット操作実習の様子)



(3) 高校生ロボットシステムインテグレーション競技会

人材育成

ロボットシステムインテグレータの人材創出を目的に、全国の高校生を対象とする競技会を、今年度初開催。県内外から10校が競技会に参加（略称：高校生ロボットSIリーグ）

競技会までの流れ

参加チームはロボットSIer企業やロボットメーカーのサポートを受け、約8か月間かけてロボットシステムの構築に取り組み、その成果を披露

4月～

9月頃～11月

12月10日、11日

共通講習

基礎・応用課題実習

競技会
@ Aichi Sky Expo

競技課題

参加チームは使用するロボット部門ごとの競技課題に取り組む

デンソーウェーブ部門
ボールペン組立



FUJI部門
お菓子の箱詰め



三菱電機部門
ギア部品組立



第1回競技会結果

来場者数

12/10 (土)	12/11 (日)	計
1,996人	2,322人	4,318人

競技会の結果

賞名	受賞校	部門
最優秀賞	栃木県立足利工業高校	デンソーウェーブ
優秀賞	愛知県立愛知総合工科高校	F U J I
優秀賞	愛知県立半田工科高校	三菱電機
特別賞	愛知県立瀬戸工科高校	F U J I
特別賞	愛知県立豊川工科高校	デンソーウェーブ



競技会でのロボット実演



競技会でのプレゼン発表

(4) サービスロボットの社会実装推進

研究開発と
実証の支援

利用者創出
と情報発信

あいちロボットトランスフォーメーション（ARX）と題し、ロボットの導入に知見のある専門家の監修の下、県内の様々な施設で、現場の用途に即した実証実験を実施するとともに、本県のロボット技術と先端的な社会の姿を、県内外に発信

実証概要 (実施スキーム)



実証実験施設

※2022年12月～2023年3月に実施

参加ロボット

各施設での実用途に対応するサービスロボット 23 機

- 清掃・消毒
- 搬送・配膳
- サイネージ
- 案内・コミュニケーション
- モビリティ
- その他



豊田スタジアム



藤田医科大学病院

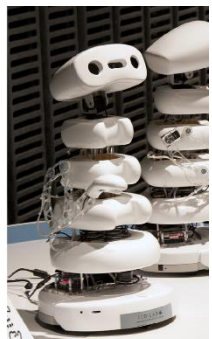


イオンモール常滑



アーバンネット名古屋ネクスタビル

Forward Stroke inc.



(5) 安全技術開発の支援

研究開発と
実証の支援

人との接触機会が多いサービスロボットの安全設計についての理解を促進するため、開発者等を対象に「サービスロボットリスクアセスメントセミナー」を開催

- 開催日 2日間（1日目：2022年11月24日、2日目：12月2日）
- 参加者数 14名（2日間のべ24名）

「有用性評価のための実証実験

～ “生活支援ロボット及びロボットシステムの安全性確保に関するガイドライン” と “エンドポイント” ～」

独立行政法人国立高等専門学校機構 豊田工業高等専門学校 校長 /
国立大学法人東海国立大学機構 名古屋大学 名誉教授 山田 陽滋 氏

「リスクアセスメントの概要と安全設計手順」

独立行政法人労働者健康安全機構 労働安全衛生総合研究所 特任研究員 池田 博康 氏

(1日目)

「サービスロボットの安全性」

「機能安全の概要」

「JQAにおけるサービスロボットの安全技術に対する支援の取組」

一般財団法人日本品質保証機構（JQA） 認証制度開発普及室 主幹 櫛引 豪 氏

「ISO13482における安全性評価」

一般財団法人日本自動車研究所 自動走行研究部ロボット評価グループ 主任研究員 勝田 智也 氏

(2日目)

(1) 医療・介護等分野ロボット実用化ワーキンググループ

開発者と利用者の
協働体制の構築

医療・介護等の現場でのロボット活用の先進事例やユーザーニーズを紹介
(座長： 国立長寿医療研究センター 理事長 荒井 秀典 氏)



● 第19回 テーマ「排泄支援」

2022年11月21日／国立長寿医療研究センター 教育研修棟 <参加者64名>

- 講演 「排泄予測デバイス『DFree』を活用した自立支援の取組み」
トリプル・ダブリュー・ジャパン(株) 小林 正典 氏
- 5分間プレゼンテーション
アロン化成(株)、(株)アム、新東工業(株)、リョーエイ(株)、(株)FUJI
- 講演 「排泄支援ロボットの導入効果と課題について」
社会福祉法人愛生館 浅田 孝一 氏
- 講演 「排泄支援機器を導入するためのアセスメントに関する提案」
国立長寿医療研究センター 伊藤 直樹 氏



● 第20回 テーマ「コミュニケーション」

2023年2月16日／国立長寿医療研究センター 教育研修棟 <参加者61名>

- 話題提供① 「〈弱いロボット〉概念に基づくインタラクションデザインとその応用」
豊橋技術科学大学 岡田 美智男 氏
- コミュニケーションロボットの活用・開発事例の紹介
事例①：介護ふれあいロボット「HIMBOT」(株)ヒミカ、医療法人安形医院
事例②：パートナーロボット「あるくメカトロウィーゴ」(株)リビングロボット
事例③：コミュニケーションロボット「BOCCO emo」(同)ネコリコ
- 話題提供② 「高齢者の生活を支援するコミュニケーションロボット活用の可能性」
国立長寿医療研究センター 大高 恵莉 氏



(2) あいちサービスロボット実用化支援センター

研究開発と
実証の支援

利用者創出
と情報発信

国立長寿医療研究センターと連携し、サービスロボットの開発・実用化を目指すモノづくり企業に対する相談対応や介護施設等とのマッチング支援を行うとともに、施設関係者の見学を受け入れ

- **設置場所** 国立長寿医療研究センター
- **開設日** 2015年8月17日
- **支援内容**
 - ・ 県内企業のロボット展示（16機種）
 - ・ 介護施設や企業のマッチング支援
 - ・ 企業のロボット開発に関する相談支援
 - ・ サービスロボットの先進事例紹介 等
- **相談件数** 2022年度 計56件（2023年2月末時点）
- **見学者数** 2022年度 計181名（2023年2月末時点）

新棟オープンに伴い、当実用化支援センターも、2022年5月に移設・リニューアル



(3) 介護ロボット出張デモ

研究開発と
実証の支援利用者創出
と情報発信

協議会会員が開発した介護ロボットの改良や普及促進のため、医療・介護施設に対してロボットを実演し普及を促進するとともに、使い勝手や改善点など現場のニーズをフィードバックする

- 対象機器

あいちサービスロボット実用化支援センターの展示ロボットのうち、希望するもの

- 出張デモの対象

愛知県及び近隣地域の医療・介護施設

- 実施件数 計16件

- ・2022年5月20日 ハローワーク名古屋中「介護と看護就職相談会」 5件
- ・2022年11月16日 ハローワーク名古屋南「介護のおしごとフェア2022」 3件
- ・2023年1月23日 ハローワーク名古屋中「介護の就職相談会」 8件

- 出張デモを契機に導入に至ったロボットの事例

移乗サポートロボット「Hug」、癒しロボット「スマイビ」等

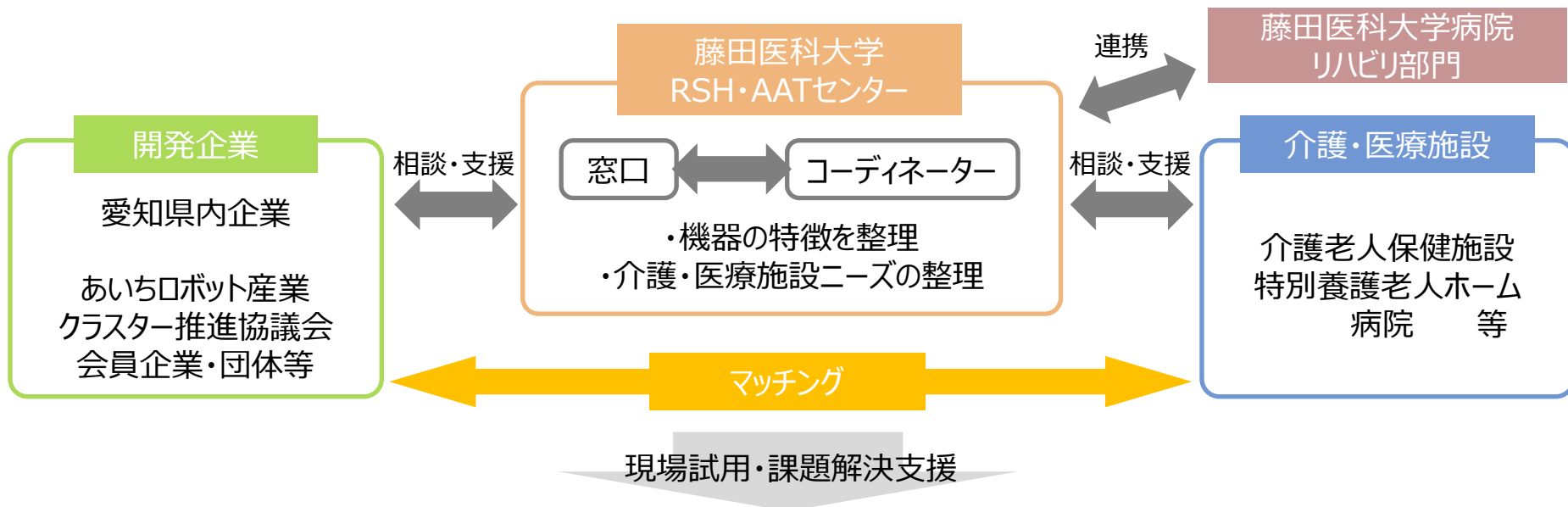


(4) 介護・リハビリ支援ロボットの活用促進

研究開発と
実証の支援

利用者創出
と情報発信

介護・リハビリ支援ロボットの開発側と利用側の双方に対応する窓口を設置
専任コーディネータによる助言等を行うとともに、開発側シーズ/利用側ニーズのマッチングを支援



介護・医療現場での介護・リハビリ支援ロボットの活用促進

- 開発側シーズと利用側ニーズのマッチング支援実績 9件
- ロボット活用推進チームによる現場導入・活用に向けた課題解決支援実績 2件 (いずれも2月末時点)
 - ① 対象機器：排泄検知システムAiserv
開発側：新東工業(株) 利用側：特別養護老人ホームひまわり
 - ② 対象機器：介助用STAR (移乗支援ロボット)
開発側：(株)今仙技術研究所 利用側：河村病院

(1) 無人飛行ロボット活用ワーキンググループ

開発者と利用者の
協働体制の構築



ドローン実証実験の報告や、先進事例・国等の取組について情報提供
(座長： 大同大学 工学部機械システム工学科 講師 橋口 宏衛 氏)

- **第19回「防災・災害対応分野ドローン活用セミナー」**
2022年11月17日 / ホテルプラザ勝川 <参加者158名>
 - 講演「2022年度愛知県無人飛行ロボット活用促進事業
ドローン等を活用した広域災害対策情報支援プラットフォームの検証について」
(株)テラ・ラボ 松浦 孝英 氏、名古屋市 山 孝太 氏
 - 講演「土木施設災害対応力向上DXの取組について」 愛知県建設局建設企画課
 - 講演「SIP 4 Dの取組と災害時のドローン活用について」
国立研究開発法人防災科学技術研究所 伊勢 正 氏

- **第20回「防災・災害対応分野におけるドローン活用に向けて」**
2023年3月9日 / 愛知県産業労働センター ウィンクあいち <参加者56名>
 - 講演「ドローンの産業振興に向けた経済産業省の取組について」
経済産業省 宇田 香織 氏
 - 講演「2022年度愛知県無人飛行ロボット活用促進事業の成果報告」
 - ▶ドローン等を活用した広域災害対策情報支援プラットフォームの検証
(株)テラ・ラボ 松浦 孝英 氏
 - ▶高ペイロードドローンを活用した孤立集落への重量物を含む救援物資輸送の検証
名古屋鉄道(株) 加地 秀 氏、新城市 小野 晃輔 氏
 - 講演「豊川市ドローン災害対応システムについて」 豊川市 土居 秀三 氏
 - 協議会会員PRタイム (協議会会員からのショートプレゼンテーション)
 - ポスターセッション (事業紹介企業と協議会会員企業等によるポスターセッションと名刺交換会)



(2) ドローン等の実証実験場の提供

研究開発と
実証の支援

県関連施設をロボットの実証フィールドとして提供

今年度利用実績 ※ 2023年2月末時点、①②は無人飛行ロボットのみ

- ① 名古屋港南5区 [知多市] … 9社・90回実施
- ② 矢作川浄化センター [西尾市] … 4社・12回実施
- ③ 愛・地球博記念公園 [長久手市] … (今年度は利用なし)

名古屋港南5区



矢作川浄化センター



愛・地球博記念公園

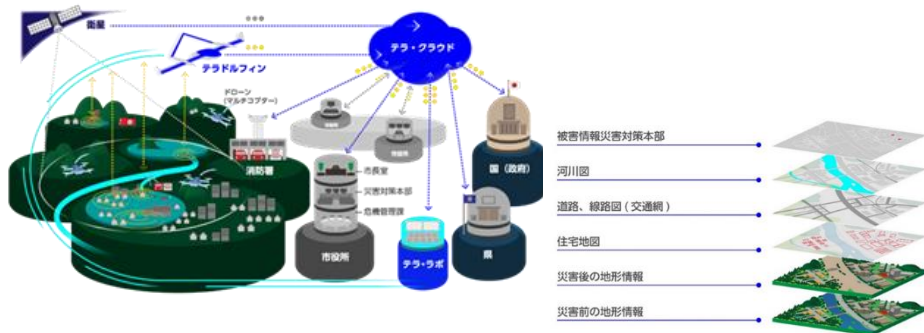


(3) 無人飛行ロボット（ドローン）の活用促進

研究開発と
実証の支援

ドローンの活躍が期待される分野でのビジネス創出を目指し、実用化レベルでの運用に即した実証実験を通じて、ビジネスモデルを作成（今年度は「防災・災害対応」をテーマに実施）

「ドローン等を活用した 広域災害対策情報支援プラットフォームの検証」



洪水等の広域災害発生時、ドローン等によって収集した被災状況データを解析し、広域災害対策情報支援プラットフォームを通して共有することで、災害対策本部等の捜索や救助、初動の迅速化を支援する運用モデルを想定した実証実験を実施。

実施体制

事業委託先	(株)テラ・ラボ
事業協力等	(株)ACSL、名古屋テレビ放送(株)、ESRIジャパン(株)、中日本航空(株)、国際航業(株)、名古屋市、春日井市 等

「高ペイロードドローンを活用した 孤立集落への重量物を含む救援物資輸送の検証」



東三河地域等の山間部で課題となっている、大規模災害による孤立集落の発生時に、ドローンが救援物資の提供を行う運用モデルを想定した実証実験を実施。

優れた携行性と高ペイロードを両立するドローンを活用し、これまで実現が難しかった小型資機材（水・食料等）の大量輸送や、蓄電池等の重量物輸送を検証。

実施体制

事業委託先	名古屋鉄道(株)
事業協力等	(株)プロドローン、生活協同組合コープあいち、ミヤチ(株)、新城市、豊川市、東三河ドローン・リバー構想推進協議会

1. 総合的・横断的取組

新技術・新製品の創出のためには、開発側と利用側が継続的に情報交換し、企業間の連携や、協働プロジェクトの組成につながる場が必要。

従来のワーキンググループに加え、業界や企業が抱える課題をテーマに、継続的な議論を交わす「サブワーキンググループ」を新設。

- ▶ **あいちロボット産業クラスター推進協議会の運営** 開発者と利用者の協働体制の構築 **1,616千円 (1,127千円)**
委員会と総会、及び3分野のワーキンググループを開催する。
- ▶ **サブワーキンググループの設置・運営（新規）** 開発者と利用者の協働体制の構築 **5,582千円**
企業や大学が有する新技術の磨き上げ・実用化、ユーザーが抱える共通課題に応じた製品開発に向けて、ロボットの開発側・利用側が参画し、継続的に検討を進めるグループを組織・運営する。（実施テーマ数：5テーマ）
- ▶ **「知の拠点あいち」重点研究プロジェクトⅣ期** 研究開発と実証の支援 **1,111,308千円 (1,112,204千円)**
県内主要産業が有する課題を解決し、新技術の開発・実用化や新たなサービスの提供を目指す産学行政連携の研究開発プロジェクトを実施する。（Ⅳ期事業期間：2022～2024年度）
- ▶ **新あいち創造研究開発補助金** 研究開発と実証の支援 **760,000千円 (760,000千円)**
ロボットを始め今後の成長が期待される分野において、企業等が行う研究開発や実証実験を支援する。
- ▶ **ロボカップジュニア・ジャパンオープンの開催** 人材育成 **1,000千円 (1,000千円)**
開催委員会に参画し、大会を推進する。（会期：2024年3月頃、会場：ポートメッセなごや）

2. 製造・物流等分野の取組

食品製造業や協働ロボットなど、今後の市場拡大が期待できる用途・製品はあるものの、導入に至らない課題がある。

県内ロボットメーカーやSIer企業が、ユーザーから課題を収集できる場を設け、食品製造業におけるロボットシステム導入モデルの構築や、協働ロボットの製品開発・改良などにつなげる。

- ▶ **製造・物流等分野ロボット導入実証ワーキンググループの開催（再掲）** 開発者と利用者の協働体制の構築
- ▶ **サブワーキンググループの設置・運営（新規・再掲）** 開発者と利用者の協働体制の構築
 - 【テーマ案】・「食品製造業におけるロボット導入モデルの検討」
 - ・「協働ロボットの活用における課題把握」
 - ・「ロボット導入を支援するデジタルツールの高度化・実用化」
 - ・「AI画像処理のロボットでの活用方法検討と習得」
- ▶ **産業用ロボット導入支援研修会の実施（拡充）** 利用者創出と情報発信 人材育成 **3,082千円** （2022年度は他事業費の一部として実施）
産業用ロボットの導入と効果的な活用を支援するための研修会を実施。経営者向けコースなどを拡充。
- ▶ **高校生ロボットシステムインテグレーション競技会の開催** 人材育成 **64,876千円（65,240千円）**
ロボットSIerの人材創出を目的とし、高校生を対象とした競技会を開催する。
- ▶ **サービスロボットの社会実装推進** 研究開発と実証の支援 利用者創出と情報発信 **28,572千円（28,572千円）**
様々な施設・分野のサービスロボットの社会実装に向け、ロボットの導入に知見のある専門家の監修の下、ユーザー用途に即した実証実験を実施する。
- ▶ **安全技術開発の支援** 研究開発と実証の支援 **218千円（231千円）**
専門家派遣等によるロボットの安全設計に関する個別相談を実施する。

3. 医療・介護等分野の取組

導入コストや投資対効果の課題により施設へのロボット導入は途上。効果の見える化、使いやすさの向上、機器間連携（システム化）などが求められている。

ロボットの導入・運用経験がある協力施設や地域の関係機関との連携を深め、ロボットの活用を促進するとともに、企業間連携等の支援に力を入れ、製品・ソリューションの高付加価値化を目指す。このため、県の各取組も効果的に連携させる。

- ▶ **医療・介護等分野ロボット実用化ワーキンググループの開催（再掲）** 開発者と利用者の協働体制の構築
- ▶ **あいちサービスロボット実用化支援センターの運営** 研究開発と実証の支援 利用者創出と情報発信 **2,604千円（4,252千円）**
 国立長寿医療研究センターと連携し、モノづくり企業やユーザーを支援する。展示機器や県事業等の情報発信機能を強化する。
- ▶ **介護ロボット出張デモ** 研究開発と実証の支援 利用者創出と情報発信 **上記センター運営経費に含む**
 会員企業が開発したロボットを医療・介護施設に対して実演し普及を促進するとともに、現場ニーズをフィードバックする。
- ▶ **介護・リハビリ支援ロボットの活用促進** 研究開発と実証の支援 利用者創出と情報発信 **11,400千円（11,400千円）**
 専門家による開発側・利用側双方への相談対応とマッチング、およびロボット導入・活用に向けた課題解決を支援する。これまで培った開発側・利用側の協働体制やニーズ・シーズの蓄積を生かして、製品・ソリューションの高付加価値化及び現場での活用を両輪で支援する。
- ▶ **安全技術開発の支援（再掲）** 研究開発と実証の支援 **218千円（231千円）**
 専門家派遣等によるロボットの安全設計に関する個別相談を実施する。

4. 無人飛行ロボット分野の取組

改正航空法施行により「レベル4 飛行」が解禁されたものの、社会実装の拡大には、社会的受容性の向上や更なる技術開発、周辺機器との連携など解決すべき課題が残っている。
さらに、活用を担う人材や、エンジニア人材の養成が求められている。

レベル4 飛行により実現する新たなビジネスを想定し、実装に向けた課題を明らかにするとともに、必要な技術開発を実証実験により支援する。
併せて、人材育成講座の実施と、ドローンエンジニア人材の育成手法の検討に取り組む。

- ▶ **無人飛行ロボット活用ワーキンググループの開催（再掲）** 開発者と利用者の協働体制の構築
- ▶ **サブワーキンググループの設置・運営（新規・再掲）** 開発者と利用者の協働体制の構築
〔テーマ案〕「ドローンエンジニア人材の育成手法の検討」
- ▶ **ドローン等の実証実験場の提供** 研究開発と実証の支援 220千円（220千円）
県関連施設をドローン等ロボットの実証フィールドとして提供
- ▶ **無人飛行ロボット(ドローン)の活用促進** 研究開発と実証の支援 10,000千円（10,028千円）
「レベル4飛行を用いた新ビジネスの実現」に向けた課題抽出・実証実験の実施と、それを通じたビジネスモデルの創出。併せて、これまでの事業成果の横展開に必要な人材育成講座の開設。